

# 2019年度 駿台懇話会

第26回連合駿台会学術賞・連合駿台会学術奨励賞受賞者は、下記の通り決定いたしました。

## 1.連合駿台会学術賞

【社会科学】

あさいすみこ  
浅井澄子(政治経済学部教授)

『書籍市場の経済分析』

## 2.連合駿台会学術奨励賞

【社会科学】

あべえつお  
安部悦生(経営学部教授)

「文化と営利 ― 比較経営文化論」

【自然科学】

せとよしや  
瀬戸義哉(農学部専任講師)

加水分解酵素型受容体DWARF14による  
ストリゴラクトン受容メカニズム

「Strigolactone perception and  
deactivation by a hydrolase receptor  
DWARF14」

## 〈駿台懇話会 式次第〉

日時：2020年1月22日(水)

午後5時30分

場所：明治大学アカデミーコモン2階

ビクトリーフロア暁の鐘

### 第1部 学術賞受賞記念講演会

- 1 挨拶 連合駿台会会長 田村 駿
- 2 講演 政治経済学部教授 浅井澄子

### 第2部 学術賞・学術奨励賞授賞式

- 1 挨拶ならびに表彰状授与  
明治大学長 土屋恵一郎
- 2 記念品授与 連合駿台会会長 田村 駿
- 3 受賞者挨拶  
政治経済学部教授 浅井澄子  
経営学部教授 安部悦生  
農学部専任講師 瀬戸義哉

### 第3部 懇親会

- 1 大学メンバー紹介
- 2 挨拶 学校法人明治大学理事長 柳谷 孝
- 3 乾杯 明治大学長 土屋恵一郎
- 4 閉会の辞  
連合駿台会副会長・学校法人明治大学評議員  
向井眞一  
(敬称略)



# 連合駿台会報

No.350 三・五・七月合併号  
令和2年7月22日発行  
発行・編集 連合駿台会  
編集人 広報委員長・齋藤柳光  
事務局・矢嶋まゆ子  
〒101-0052 千代田区神田小川町三十二  
明治大学「紫紺館」内  
印刷 有限会社 美創



(左から) 柳谷孝理事長、安部悦生先生、浅井澄子先生、田村駿会長、瀬戸義哉先生、土屋恵一郎学長

## 連合駿台会学術賞・学術奨励賞を授与

## 新春の駿台懇話会（一月例会）

令和二年最初の連合駿台会例会（駿台懇話会）を、一月二十二日（水）十七時半より、明治大学アカデミーコモン二階「ビクトリーフロア眺の鐘」で開催しました。

田村会長の挨拶に続いて、学術賞および学術奨励賞のお名前と選考経過が発表されました。そして学術賞受賞者の浅井澄子先生（政治経済学部専任教授）の受賞記念講演がありました。

講演の要旨は以下の通りです。

\*

## 叡智を次の世代に引き継ぐために

—書籍市場の分析から見えるもの—

## 一、はじめに

連合駿台会学術賞の授与に対し、皆さまに心より感謝申し上げます。また、この書籍は数年前の科学研究費補助金による研究成果をまとめたもので、KDDI財団の出版助成金を得て、刊行したものです。出版に至るまでの関係の方々に改めて御礼申し上げます。私はデータを使った経済分析を行っています。本日はモデルや分析手法の話は捨象し、得られた結果と現実へのインプリケーションにつ

いてお話をしたいと思います。最初になぜこのテーマで書籍として刊行したのかの理由をお話しし、次に書籍価格の設定、書籍販売と図書館との関係について述べたいと思います。

## 二、なぜ書籍として刊行したか

経済学、特に理論や実証を専門とする研究者は、多くの自然科学の研究者と同様、書籍より国際的なジャーナルへの論文投稿に力を注ぎます。そのような行動形態の中で、あえて書籍を発行することは、専門的な箇所は控える一方、論文では対応が難しい体系的な知識を提示することができるからです。しかし、今回の書籍の刊行には、これまでとはやや違う側面があります。最初にそのことをお話したいと思います。

この本の中心的テーマは、書籍を販売する書店が価格を決定するのではなく、出版社が小売価格を決定する価格拘束、すなわち独占禁止法における再販売価格維持制度についてです。書籍価格の拘束について論文を書き、海外のジャーナルに投稿したところ、その編集者からのコメントは、「日本特有の問題について、海外の読者は興味がない」という、私にとって意外なものでした。なぜならば、米国では当初から書店が価格を決定し、英国では一九九〇年代に出版社の価格設定から書店の決定へと変更したものの、ドイツ、フラ

ンスなど多くのヨーロッパ諸国や韓国などのアジアでは、再販売価格維持制度は認められているからです。編集者のコメントを受けて、改めて主要国の書籍価格の設定権について調べてみました。その結果、確かにヨーロッパやアジア諸国でも、再販売価格維持制度は認められています。短いところで発行から半年、可能な期間は、短いところで発行から半年、経過した時点で、書店が価格を変更することができるといふものでした。これは日本では時限再販と呼ばれています。適用されるケースはごくわずかです。つまり、日本のようにほぼすべての書籍に対し、出版社が設定した価格が永久的に維持される仕組みは、世界的にほとんど例がないことです。村上春樹氏の作品は、さまざまな言語に翻訳されていますが、その翻訳本をフランスやドイツのAmazonで検索しますと、実際に二〇、三〇%程度の割引がなされています。

編集者のコメントから、日本の書籍市場には、私たちが当たり前と思っていたシステムが、国際的には異なることがあるという認識に立って分析を進めることを考えました。国際的に同じプロトコルで接続する通信ネットワークなどと異なり、社会の制度は、それぞれの国における経緯や他のシステムの補完性から、独自の仕組みが存続することがありま

す。一九七九年に Ezra Vogel が 'Japan as Number One' 刊行しました。この副題は 'Lessons for America' 也。Japan as Number One で日本特有の社会システムが評価された頃、日本経済を分析した論文は、海外のジャーナル編集者から歓迎されたという話を聞いたことがあります。日本独自のシステムが優れたものであるならば良いのですが、私たちが当然と思っていたシステムの中に、海外のシステムよりも劣っているものがあれば、改善をする必要があります。日本の書籍市場、とりわけ価格設定に関し、海外と異なる点は何か、その相違は優れたものであるのか、改善を要するものであるのかという問題意識から実証分析を行い、その結果を特に日本の出版関係者の方々からは煙たがられることを覚悟でお知らせしたいという思いから、書籍という形態をとりました。

### 三、書籍の価格設定

学部の一学生は、企業が利潤を最大化するには、需要の価格弾力性に反比例するように価格を設定することを学びます。これは直感的には、値上げをしても需要があまり減らない財には、費用を大きく上回る価格を設定し、値上げによって大きく需要が減少する財には費用に即した水準で価格を設定することが、企業の利潤を増加させることを意味します。

つまり、価格水準の設定には、その財の需要が価格の変化にどのくらい反応するか、需要の価格弾力性を知ることが重要となります。そこで、単行本・文庫本の小説、教養系の新書について、タイトル毎に需要の価格弾力性を計測しました。その結果、小説については、すべてのタイトルで需要は価格に対し弾力的、教養系の新書に関しては非弾力という結果が得られました。

次に日米間でのジャンルごとの価格水準を比較するため、小説、実用書、専門書を対象に洋書とその洋書の日本語への翻訳書の価格水準を比較しました。ここから全体的な傾向として、小説の洋書価格は翻訳書よりも大幅に低い一方、専門書に関しては翻訳書の方が洋書価格を大きく下回る結果が得られました。洋書を日本語に翻訳するには、翻訳作業のほか、海外の出版社にライセンス料を支払う必要があります。また、英語で書かれた書籍は世界中で販売されますが、日本語の翻訳書の販売先は日本国内に限られます。理屈の上ではすべてのジャンルにおいて翻訳書の方が割高になるのですが、為替レートを考慮したにせよ、小説の洋書価格は低く、専門書は高いという現象は、海外の出版社が需要の価格弾力性を踏まえた価格設定をしているのに対し、日本の出版社は印刷代金などの費用を発行部数で割り、一冊当たりの費用に基づく価格設

定をしていることで説明できます。換言すれば、日本の出版社は、同じ部数を販売しても、価格設定方式を変更することで利潤を増加させる余地があるといえます。

### 四、図書館の販売への影響

一部の出版社や著者は、さまざまな機会ですべて「公共図書館は無料の貸本屋」であり、書籍の販売を阻害すると主張してきました。確かに一九九〇年代後半以降、書籍市場が縮小を続けているのに対し、公共図書館の貸出冊数は増加傾向にあります。しかし、逆方向の動きが観察されるからと言って、因果関係があるとは限りません。そこでインパルス反応関数という時系列分析の手法で検証した結果、貸出冊数の増加は販売部数を減少方向に作用するものの、その影響は非常に小さく、統計的に有意なものではないということでした。さらに、日本には全国で三〇〇〇を超える公共図書館がありますので、公共図書館は書籍の購入者の側面もあります。

図書館が大口需要者である分野が、専門書市場です。出版科学研究所の調査によると、専門書の一タイトル当たりの発行部数は平均六〇〇冊ですので、販売部数はこれより少なくなります。また、複数の調査結果から、専門書の需要のほぼ半分は、大学図書館の購入分ともいわれます。つまり、大学図書館は、

専門書の大口需要者です。しかし、日本の大学図書館の予算は減少傾向にあり、さらに海外のジャーナル価格の上昇で、日本の大学図書館の図書購入費は、日本図書館協会の調査によると、一九九四年度の三百七十八億円をピークに、二〇一六年度では百七十三億円まで減少しています。大学図書館が書籍の購入を抑制することで、専門書の発行が難しい事態に陥っています。

### 五、現行システムの見直しの必要性

自然科学の研究者はもちろん、社会科学の研究者の研究成果の発表媒体は、国際的なジャーナルです。論文では、焦点を絞ったテーマに関して精緻化した議論を展開しますが、そのテーマをめぐる体系的な議論をすることはできません。また、将来の研究者の卵である学部学生が、最初から国際的なジャーナルに掲載された論文を読みこなすことはできません。現在の世代が次の世代に叡智を引き継いでいくためには、書籍は重要な役割を果たします。

一九九〇年代後半以降の出版不況といわれる中で、出版社は発行点数を増やすことにより、収入の減少を補おうとしてきました。しかし、書籍には固定費用がかかる中で、発行点数を増加させることは、一点当たりの販売部数の減少と、書店に陳列される期間の短縮

化、あるいは陳列すらされない確率を高めています。書籍の発売開始から一定期間経過後の価格引き下げ、需要の価格弾力性を考慮した価格設定、単行本と文庫本の発行までのタイムラグなど、これまで長く続いてきた方式を見直すことで、出版関係者の利潤増加につながる可能性があります。心を豊かにしてくれる小説や研究成果を次の世代に届けるためには、健全な書籍市場の発展が不可欠です。

### 六、おわりに

今回の本の一部では、学術書や学術ジャーナルについても言及しています。現在の私の研究テーマは、学術ジャーナルです。いわば研究を研究対象としています。まだやり始めたばかりですが、研究成果をめぐる国際競争をするためには、改善の余地があるように思われます。私たちは日本語という閉じた世界の中で生活しています。これまで国内市場が比較的大きかったことから、問題を問題として認識することなく、過ごすことができました。私はジャーナル編集者のコメントをもらうまで、日本の書籍に対する再販売価格維持制度が諸外国とは異なるものであることを知りませんでした。そのようなことは他の分野でも起こります。むしろ、これまでのやり方を見直すことで改善の余地があることは、伸びる可能性があるという意味で朗報で

もありません。今後も改善案を示すことを目指し、データ分析に取り組んでいきたいと思えます。

本日はご清聴、ありがとうございました。

### ◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。  
(敬称略・到着順)



かわせ とおる  
川瀬 透

昭和五十九年・政経学部卒  
大東京信用組合  
参与（総合企画部）  
東京都新宿区在住



もとほし なおき  
本橋 尚樹

昭和五十七年・法学部卒  
加嶋法律事務所  
代表弁護士  
東京都世田谷区在住



くろき あきお  
黒崎 昭男

昭和五十年・政経学部卒  
日流通運輸倉庫株  
代表取締役社長  
埼玉県上尾市在住



木村 弘一  
昭和五十九年・工学部卒  
(株)川島織物セルコン  
代表取締役社長  
京都府京都市在住



荒木 吉哉  
昭和六十一年・政経学部卒  
(株)山口フィナンシャルグループ  
専務執行役員市場事業本部長  
東京都新宿区在住



柿沼 武幸  
昭和五十八年・政経学部卒  
(株)イー・ワイ・イーロジステイクス  
代表取締役社長  
埼玉県蕨市在住



平田 桂子  
平成四年・文学部卒  
(株)エヌクオーレ  
代表取締役  
東京都杉並区在住



伊藤 充宏  
昭和五十六年・政経学部卒  
静岡放送(株)・取締役  
静岡県静岡市在住



高橋 一成  
昭和六十二年・経営学部卒  
全国共済農業協同組合連合会  
常務理事  
東京都町田市在住

◆ 訃 報

会員の江崎友次郎氏(昭和二十七年・商学部卒、(株)藤枝江崎新聞店代表取締役会長)が、令和二年四月二日に逝去されました。享年九十一歳。

会員の梅津章氏(昭和四十七年・経営学部卒、(株)クオリティサポート代表取締役)が、令和二年五月三十日に逝去されました。享年七十歳。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

◆ 明大ニュース

● 明治大学学生・教育活動緊急支援資金  
学生緊急支援ファンドを創設

大学拠出五億円に加えて

校友会から二億円の寄付

このほど、感染症の流行や災害の発生等の不測の事態による被害に備えるとともに、その被害を受けた学生の支援および本学の教育活動を維持するための支援を用途とした「明治大学学生・教育活動緊急支援資金」(通称:「学生緊急支援ファンド」SERF: Student

Emergency Relief Fund) が設立された。

このファンドに対して、明治大学校友会から二億円が寄付されることとなり、緊急事態宣言解除後の五月二十六日に駿河台キャンパス・大学会館において、北野大校友会長から柳谷孝理事長への目録贈呈が行われた。柳谷理事長に加えて、大六野耕作学長と大原幸男経営企画担当常勤理事が出席した。

今回寄付された二億円は、校友会が毎年積み立てている校友会基金から拠出されたもので、北野会長は「この基金は歴代の校友の皆さまが積み立ててこられたもの。このような状況で困窮している本学学生のために役立てていただきたい」と述べた。

このファンドは、大学拠出の五億円に校友会からの二億円を加え、七億円規模でスタート。今後、各年度での追加拠出や、校友・教職員からの寄付などを募り、二〇二三年度までに総額十億円を超えるファンドとする予定になっている。

また、春学期に実施しているオンライン授業に関する学生アンケートの結果、自宅の通信環境や印刷環境などの学習環境が不十分であるとの声を受け、これらの整備のための支援として希望する学生一人あたり一万円の支給を決定し、この原資としてファンドの資金が活用されることとなった。

### ●「活動制限指針」レベル2に引き下げ 一部科目で対面授業を再開

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、明治大学は四月二十二日に大学の諸活動の可能範囲を六段階でまとめた「明治大学活動制限指針」を公開した。公開当初はレベル4（緊急事態宣言が発令されている状態）として、全授業のオンライン実施などの対策を行ってきたが、六月一日のレベル3に続き、七月一日よりレベル2に引き下げられた。

このことから、一部の科目で部分的に対面での授業が開始されることとなった。実施科目は、対面に加えてオンライン配信などの措置を取り、登校を控えたいという学生に配慮し、登校前提の授業運営とならないような柔軟な対応を行う。学内での研究活動については感染拡大防止に留意した上で許可され、課外活動については原則活動禁止となるが、大学が許可した一部の活動は可能となる。

学生の入構は授業出席を目的としたものを除いて原則自粛となるが、図書館、メディア関連施設、研究室・実験室などの一部施設の利用が可能となる。利用にあたっては、大学ホームページや各施設のページに掲載された注意事項をよく確認し、感染拡大防止に配慮することとしている。

今後、政府または東京都の方針変更などに伴い活動制限指針のレベルを変更する可能性

があり、その際は大学ホームページや学生向けポータルサイト「Oh@Meiji」などを通じて周知していく予定。

### ●新評議員八十八人が就任

明治大学の最高意思決定機関である評議員会を構成する評議員の任期が二月二十三日で満了となり、二月二十四日、新評議員八十八人が就任した。

新評議員は、学校法人明治大学寄附行為第十七条第二項第一号に定める職務上の評議員十三人（各学部長、大学院長、専門職大学院長および高等学校長兼中学校長）と、各機関から選出された銓衡委員三十四人で構成する評議員銓衡委員会の選任による評議員七十五人（教員十四人、職員七人、校友三十四人、学識経験者二十人）の計八十八人。うち三十三人が新任、五十四人が再任、一人が元評議員。

新評議員の任期は四年間で、職務上の評議員を除き、二〇二〇年二月二十四日から二〇二四年二月二十三日まで。

### 【新評議員】

（敬称略・五十音順・青字は連合駿台会会員）

青野覚<sup>再</sup>、安達明正<sup>新</sup>、荒川薫<sup>再</sup>、荒川利治<sup>再</sup>、有賀隆治<sup>再</sup>、安藏伸治<sup>再</sup>、池田一義<sup>新</sup>、石川恵資<sup>新</sup>、石川幹人<sup>再</sup>、伊与久美子<sup>再</sup>、岩

田守弘<sup>再</sup>、上野正雄<sup>新</sup>、大倉学<sup>再</sup>、大野友和

<sup>新</sup>、大原幸男<sup>再</sup>、尾島育四郎<sup>再</sup>、尾関直子<sup>新</sup>、

小野寺幸子<sup>再</sup>、尾花正明<sup>新</sup>、狩野省市<sup>新</sup>、川

島廣司<sup>新</sup>、河村博<sup>再</sup>、岸上謙司<sup>再</sup>、木下唯志

<sup>新</sup>、木村健一<sup>再</sup>、桐原正樹<sup>新</sup>、草木頼幸<sup>新</sup>、

沓掛英二<sup>新</sup>、久保田寿夫<sup>再</sup>、合田正人<sup>再</sup>、小

西徳應<sup>再</sup>、小山修<sup>再</sup>、齋藤柳光<sup>再</sup>、佐野公哉

<sup>新</sup>、清水秀夫<sup>再</sup>、鈴井正敏<sup>再</sup>、鈴木賢志<sup>再</sup>、

須田努<sup>再</sup>、園田英次<sup>再</sup>、大黒岳彦<sup>再</sup>、大六野

耕作<sup>元</sup>、高野和子<sup>新</sup>、高橋郁夫<sup>再</sup>、高橋淑浩

<sup>再</sup>、武田宣夫<sup>再</sup>、竹中麻子<sup>新</sup>、竹本持持<sup>再</sup>、

田中等<sup>再</sup>、田部井茂<sup>再</sup>、田村駿<sup>再</sup>、土屋恵一

郎<sup>再</sup>、出見世信之<sup>再</sup>、当山明彦<sup>新</sup>、徳丸平太

郎<sup>再</sup>、豊川浩一<sup>新</sup>、中川敏洋<sup>再</sup>、中西晶<sup>新</sup>、

中村義幸<sup>再</sup>、中山真一<sup>再</sup>、西澤豊<sup>再</sup>、西脇司

<sup>新</sup>、畠中君代<sup>再</sup>、畑農鋭矢<sup>新</sup>、針谷敏夫<sup>再</sup>、

平井克彦<sup>再</sup>、平田静子<sup>新</sup>、広沢絵里子<sup>新</sup>、福

田敏行<sup>新</sup>、藤重由美子<sup>再</sup>、堀越孝<sup>再</sup>、本間次

彦<sup>新</sup>、増子真也<sup>再</sup>、松崎優子<sup>再</sup>、松山直樹<sup>再</sup>、

丸山律夫<sup>再</sup>、三木一郎<sup>再</sup>、向井真一<sup>再</sup>、六井

元一<sup>新</sup>、村上一博<sup>再</sup>、森下正<sup>新</sup>、安岡範悦<sup>再</sup>、

柳谷孝<sup>新</sup>、山田浩哉<sup>新</sup>、山本昌弘<sup>新</sup>、弓野理

恵<sup>新</sup>、吉村孝司<sup>再</sup>、渡邊建三<sup>新</sup>、渡邊友亮<sup>新</sup>

### ●第一回評議員会を開催

三月二日、駿河台キャンパス・リバティタワー一階リバティホールにおいて第十九期となる新評議員による第一回評議員会が開催さ

れた。審議内容は次のとおり。

①評議員会議長および副議長の選任が行われ、議長に田村駿評議員、副議長に三木一郎評議員（理工学部教授）が就任した。任期は二年間となる。

②学校法人明治大学寄附行為施行規則に基づき、役員候補者（理事長・理事・監事）銓衡委員十七人の選出を行った。

**評議員会議長 田村 駿**

一九六五年商学部卒業。北野建設(株)顧問。

**評議員会副議長 三木一郎**

一九七三年工学部卒業。理工学部教授。

### ●法人役員の所管業務が決定

学校法人明治大学は三月三十日、評議員会を開催し、理事長に校友の柳谷孝氏（再任・一九七五年商学部卒）、学長に大六野耕作政治経済学部教授（一九七七年法学部卒、八二年大学院政治経済学研究所博士後期課程単位取得退学、前国際交流担当副学長）の就任を決定した。理事十人も選任され、四月一日付で新理事会が発足した。

あわせて四日一日に開催された理事会で、常勤理事五人の所管業務が決定。財務担当に中里猛志理事、経営企画担当に大原幸男理事、教務担当に青野覚理事、総務担当に田部井茂理事、学務担当に岡安孝弘理事が就任した。

### 【法人役員の略歴紹介】

#### 財務担当常勤理事 中里 猛志

一九六六年明治大学商学部卒業。公認会計士。朝日監査法人（現・有限責任あずさ監査法人）本部理事など歴任。二〇〇九年中里猛志公認会計士事務所開設。一六年学校法人明治大学財務担当常勤理事。

#### 経営企画担当常勤理事 大原 幸男

一九七四年明治大学商学部卒業。八九年H O Y A U S A 副社長、九四年H O Y A コンテニウム(株)代表取締役社長、二〇〇〇年H O Y A サービス(株)代表取締役社長、〇七年ベントックス(株)取締役。一六年学校法人明治大学理事。

#### 教務担当常勤理事 青野 覚さとし

一九七三年明治大学法学部卒業、七八年同大学院博士課程単位修得退学。九九年明治大学法学部助教授、二〇〇二年同教授。法学部長、副学長など歴任。一七年紺綬褒章受章。

#### 総務担当常勤理事 田部井茂

一九七九年明治大学文学部卒業。二〇〇五年学生厚生課長、〇七年体育課長兼務、同年学生支援事務長、一一年教育支援部長、一三年経営企画部長、一六年学生支援部長、同年学校法人明治大学理事。参事。

#### 学務担当常勤理事 岡安孝弘

一九八一年上智大学文学部卒業、八六年同大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。二〇〇四年明治大学文学部教授。心理臨床セ

ンター副センター長、文学部心理社会学科長など歴任。博士（心理学）。

#### 理事 岩田 守弘

一九六六年明治大学法学部卒業。二〇〇四年(株)びわこ銀行副頭取、びわ湖放送(株)監査役。校友会副会長など歴任。

#### 理事 尾島 育四郎

一九七〇年明治大学法学部卒業。二〇〇三年三徳印刷(株)代表取締役社長。総明会会長など歴任。

#### 理事 尾関直子

一九七六年慶應義塾大学文学部卒業、二〇〇〇年ペンシルベニア大学インディアナ校大学院言語学及び修辞学博士号取得。〇三年明治大学経営学部助教授、〇四年同教授、〇八年国際日本学部教授。同学科長、教務主任など歴任。

#### 理事 荒川利治

一九七七年明治大学工学部卒業、八三年同大学院博士後期課程中途退学。八三年明治大学工学部助手、二〇〇五年同理工学部教授。理工学研究科長、理工学部長など歴任。一六年学校法人明治大学情報担当常勤理事。博士（工学）。

#### 理事 岸上謙司

一九八二年明治大学商学部卒業。二〇〇八年教学企画事務長、一二年教学企画部長、一六年財務部長。参事。

## ●研究・情報担当常勤理事に荒川教授

五月一日に開催された評議員会において、常勤理事の増員が承認され、荒川利治理事（理工学部教授）が研究・情報担当常勤理事に就任した。四月一日に就任した五氏に加わり、常勤理事は六人体制となる。

## ●副学長に九氏が就任

副学長に、渡邊友亮理工学部教授（総合政策担当）、千田亮吉商学部教授（教務担当）兼教務部長（再任）、浜本牧子農学部教授（学務担当）兼学生部長、乾孝治総合数理学部教授（研究担当）、源由理子専門職大学院ガバナンス研究科教授（社会連携担当）、上野正雄法学部教授（広報担当）兼学長室専門員長、小室輝久法学部教授（国際交流担当）、西山春文商学部教授（スポーツ振興担当）、鎌田弘之理工学部教授（情報教育担当）の九氏が四月一日付けで就任した。

副学長は「副学長に関する規程」に基づき、総合政策、教務、学務、研究などの職務を担当、学長の指示の下に教学の重要事項を執行し、学長の職務を補佐する。

副学長のうち一名は、学長候補の立候補者が副学長候補者を指名し、連合教授会において学長候補者とともに選出され、理事会で任命される。今回は、昨年十二月十四日の連合教授会で学長候補者の大六野耕作政治経済学

部教授とともに副学長候補者として渡邊教授が選出された。

そのほかの副学長は、学長または学長候補者の指名に基づき、学部長会の承認を得て理事会が任命することから、大六野教授が指名。三月十八日の理事会で九氏が任命された。

なお、教務担当の副学長は教務部長が兼ね、学務担当の副学長は学生部長が兼ねることになっている。任期は二〇二四年三月三十一日までの四年間。

## 【副学長の略歴紹介】

## ・総合政策担当 渡邊 友亮

一九九六年明治大学理工学部卒業、二〇〇一年東京工業大学大学院博士後期課程修了。〇七年明治大学理工学部准教授、一二年同教授。国際連携副本部長など歴任。博士（工学）。

## ・教務担当 千田 亮吉

一九七九年慶應義塾大学経済学部卒業、八四年同大学院博士課程単位修得退学。九九年明治大学商学部教授。教務部長など歴任。

〈マクロ経済の実証分析〉  
・学務担当 浜本 牧子

一九八〇年山梨大学工学部卒業、八六年東京大学大学院博士課程修了。二〇〇四年明治大学農学部助教授、一二年同教授。副学長（男女共同参画・障がい者少数者支援担当）など歴任。博士（農学）。〈応用微生物学〉

## ・研究担当 乾 孝治

一九八七年東京工業大学工学部卒業、二〇〇〇年東京大学大学院数理学部研究科博士後期課程単位修得退学。〇四年明治大学大学院グローバル・ビジネス研究科准教授、一〇年明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科教授、一三年明治大学総合数理学部教授。学長室専門員など歴任。博士（理学）。

〈金融市場分析論〉

## ・社会連携担当 源 由理子

一九八〇年国際基督教大学教養学部卒業、八九年アメリカ国際経営大学院修士課程修了、二〇〇九年東京工業大学大学院博士後期課程修了。〇九年明治大学専門職大学院ガバナンス研究科教授。同研究科長など歴任。博士（学術）。

## ・広報担当、学長室専門員長 上野 正雄

一九八〇年明治大学法学部卒業。二〇〇三年明治大学法学部助教授、〇四年同大学院法学部法務研究科助教授、〇七年明治大学法学部准教授、一〇年同教授。学長室専門員など歴任。

## ・国際交流担当 小室 輝久

一九九二年東北大学法学部卒業、九四年同大学院博士前期課程修了。九八年明治大学法学部助手、二〇一九年同教授。国際教育センター長など歴任。

## ・スポーツ振興担当 西山 春文

〈法史学（西洋）〉

一九八三年明治大学文学部卒業、九〇年同  
 大学大学院博士後期課程単位修得退学。九〇  
 年明治大学商学部助手、二〇〇三年同教授。  
 同教務主任など歴任。〈日本近代文学〉

・情報教育担当 鎌田弘之

一九八二年明治大学工学部卒業、八七年同  
 大学院博士後期課程修了。八七年同工学部助  
 手、二〇〇〇年同大学理工学部教授。情報基  
 盤本部長など歴任。博士（工学）。

〈情報処理〉

●顧問に九氏が就任

五月二十九日に開催された評議員会におい  
 て、学校法人明治大学顧問に次の九氏が承認  
 され、五月三十日付で就任した。任期は、任  
 命した柳谷孝理事長の任期満了日の二〇二四  
 年三月三十一日まで。

・北野大

一九六五年明治大学工学部卒業。校友会長。

・兒玉圭司

一九五七年明治大学経営学部卒業。元評議  
 員会議長。

・長堀守弘

一九五九年明治大学文学部卒業。元理事長。

・長吉泉

一九五六年明治大学政治経済学部卒業。元  
 理事長。

・納谷廣美

一九六二年明治大学法学部卒業。元学長。  
 ・福宮賢一  
 一九六九年明治大学商学部卒業。元学長。

・向殿政男

一九六五年明治大学工学部卒業。前校友会  
 長。

・村山富市

一九四六年明治大学専門部政治経済科卒  
 業。元内閣総理大臣、元社会民主党党首。  
 校友会名誉会長。

・山口政廣

一九六〇年明治大学政治経済学部卒業。前  
 評議員会議長。

●新監事に三氏

学校法人明治大学監事に、佐藤健氏、高岡  
 香氏、奥山弘幸氏が六月一日付で就任した。  
 三氏は三月九日に開催された法人役員候補者  
 の銓衡委員会で監事に銓衡され、三月三十日  
 の評議員会で理事長、理事とともに選任され  
 た。任期は二〇二四年五月三十一日までの四  
 年間。

さらに、明治大学寄附行為第十二条第三項  
 の規定に基づき、六月十七日に開催された理  
 事会において、佐藤監事を常勤監事に任命し  
 た。

常勤監事 佐藤健<sup>再</sup>

一九六九年明治大学商学部卒業。ORIX

元専務執行役国際本部長など（海外駐在五カ  
 国約二十三年間）歴任。

監事 高岡香<sup>新</sup>

一九七七年明治大学法学部卒業。弁護士。  
 神奈川県監査委員など歴任。

監事 奥山弘幸<sup>新</sup>

一九七八年明治大学商学部卒業。公認会計  
 士。新日本有限責任監査法人（現・EY新日  
 本有限責任監査法人）常任理事、日本公認会  
 計士協会常務理事など歴任。二〇一九年黄綬  
 褒章受章。

●新役職者が決定

任期満了に伴う教員の新役職者が四月一日  
 付で就任した。

農学部は竹本田持教授、情報コミュニケー  
 ション学部は須田努教授が新学部長に就任。  
 法学部村上一博学部長、経営学部大倉学学部  
 長、国際日本学部鈴木賢志学部長は再任され  
 た。また、大学院長には小川知之総合数理学  
 部教授が新たに就任した。以上六氏は、学校  
 法人明治大学寄附行為第十七条第二項第一号  
 の規定により、同日付で職務上の評議員と  
 なった。その他、教務部長には千田亮吉商学  
 部教授（再任）、学生部長には浜本牧子農学  
 部教授、学長室専門員長には上野正雄法学部  
 教授が就任した（三氏とも副学長兼務）。

さらに、六月十七日の理事会で、副学長一

名の追加が承認され、小野島真政治経済学部教授が新たに副学長に就任した。四月一日に就任した九氏に加わり、副学長は一〇人体制となる。

主な新役職者の略歴は以下の通り。任期は、副学長、教務部長、副教務部長、学生部長が二〇二四年三月三十一日、それ以外は二〇二二年三月三十一日まで。

・副学長（入試担当） 小野島真<sup>新</sup>  
二〇〇〇年明治大学大学院博士後期課程修了。〇四年政治経済学部助教、一〇年同教授。副教務部長など歴任。博士（経済学）。

〈財政学〉

・法学部長 村上二博<sup>再</sup>  
一九八九年神戸大学大学院博士後期課程単位修得退学。九三年法学部専任講師、二〇〇二年同教授。法学部法律学科長など歴任。博士（法学）。

〈日本近代法史〉

・農学部部長 竹本 田持<sup>新</sup>  
一九八三年明治大学大学院修士課程修了。八六年農学部助手、二〇〇七年同教授。副学長など歴任。博士（農学）。〈農業経営学〉

・経営学部部長 大倉学<sup>新</sup>  
一九八九年明治大学大学院博士前期課程修了。九一年明治大学経営学部助手、二〇〇三年同教授。経営学部会計学科長など歴任。

〈会計学〉

・情報コミュニケーション学部長 須田努<sup>新</sup>

一九九一年早稲田大学大学院博士前期課程修了。二〇〇八年情報コミュニケーション学部准教授、一一年同教授。情報コミュニケーション学部情報コミュニケーション学科長など歴任。博士（文学）。

〈異文化コミュニケーション史〉

・国際日本学部長 鈴木賢志<sup>再</sup>  
二〇〇〇年ワウウィック大学大学院修了。〇八年国際日本学部准教授、一三年同教授。国際日本学部教務主任など歴任。Ph.D.

〈日本社会システム論〉

・大学院長 小川知之<sup>新</sup>  
一九八九年京都大学大学院理学研究科博士課程単位修得退学。二〇一一年理工学部教授、一三年総合数理学部教授。副学長など歴任。博士（理学）。

〈力学系理論〉

・副教務部長 瀬倉正克<sup>再</sup>  
一九八五年明治大学大学院博士課程単位修得退学。九一年明治大学政治経済学部専任講師、二〇〇四年同教授。政治経済学部教務主任など歴任。

〈フランス語〉

・副教務部長 武田巧<sup>新</sup>  
一九八七年明治大学大学院博士前期課程修了。二〇〇〇年政治経済学部助教、一三年同教授。政治経済学部教務主任など歴任。

〈経済学〉

・副教務部長 石原康利<sup>新</sup>  
一九八九年長岡技術科学大学大学院工学研

究科修士課程修了。二〇一〇年理工学部准教授、一二年同教授。理工学部機械情報工学科長など歴任。博士（工学）。〈機械情報工学〉

・副教務部長 阿原一志<sup>再</sup>  
一九九二年東京大学大学院博士課程修了。九二年理工学部助手、二〇一三年総合数理学部教授。総合数理学部教務主任など歴任。博士（理学）。

〈計算数理論〉

・社会連携副機構長 小川智由<sup>新</sup>  
一九七七年明治大学大学院修士課程修了。二〇〇四年商学部教授。商学部商学科長など歴任。

〈物的流通論〉

・研究企画推進本部長 中別府修<sup>再</sup>  
一九九〇年東京工業大学大学院博士前期課程修了。二〇〇六年理工学部助教、〇七年同教授。社会連携促進知財副本部長など歴任。博士（工学）。

〈工業力学〉

・博物館長 千葉修身<sup>新</sup>  
一九八六年明治大学大学院博士後期課程単位修得退学。九三年商学部助教、九五年同教授。大学院商学研究科長など歴任。博士（商学）。

〈原価計算論〉

・国際連携本部長 小室輝久<sup>新</sup>  
一九九四年東北大学大学院博士前期課程修了。九八年法学部助手、二〇一九年同教授。国際教育センター長など歴任。

〈法史学（西洋）〉

・心理臨床センター長 伊藤直樹<sup>新</sup>

一九九二年東京大学大学院修士課程修了。  
二〇〇三年文学部専任講師、二〇一二年同教授。文学部教務主任など歴任。〈教育心理学〉

・付属明治高等学校校長兼付属明治中学校長

安藏 伸治<sup>再</sup>

一九八五年南カリフォルニア大学大学院博士課程修了。八六年政治経済学部専任講師、九五年同教授。政治経済学部経済学科長など歴任。博士（社会学）。

〈人口学〉

●八千二百四十四人が明治大学に入学

二〇二〇年度新入生八千二百四十四人が明治大学に入学した。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、四月七日に両国国技館で予定されていた入学式は中止となり、さらに、新学期の授業開始が五月七日に繰り下がるなどの対応が行われる中での入学となった。

春学期の授業は「OhonMeiji」システムやWEB会議システムなどを活用したオンライン授業で実施される予定。全学単位でのオンライン授業は明治大学では初の試みとなるが、新入生・在学生を迎え入れるため、教職員が総力を挙げて新年度準備に取り掛かっている。

〈二〇二〇年度入学者数〉

・法学部：947人  
・商学部：1043人

・政経学部：995人

・文学部：857人

・理工学部：939人

・農学部：557人

・経営学部：767人

・情報コミュニケーション学部：525人

・国際日本学部：367人

・総合数理学部：275人

学 部 計 7272人

大 学 院 計 751人

専 門 職 大 学 院 計 221人

●OB社長・会長

▽株りそな銀行Ⅱ岩永省一氏（一九八九年経営学部卒・五十四歳）

▽株沖データⅡ森孝廣氏（一九八八年経営学部卒・五十五歳）

▽東芝機械株Ⅱ坂元繁友氏（一九八三年工学部卒・六十一歳）

▽国際紙パルプ商事株Ⅱ栗原正氏（一九七九年政経学部卒・六十四歳）

▽株バンダイロジバルⅡ弓野理恵氏（一九八二年政経学部卒・六十歳）

▽株ストライプインターナショナルⅡ立花隆央氏（二〇一五年グローバル・ビジネス研究科修了・四十八歳）

▽株アイチコーポレーションⅡ山岸俊哉氏（一九八二年商学部卒・六十歳）

▽あいホールディングス株Ⅱ荒川康孝氏（一九八三年商学部卒・六十一歳、九月二十五日就任予定）

▽株近畿日本ツーリスト首都圏Ⅱ大原浩氏（一九九〇年経営学部卒・五十三歳）

▽株エスラインギフ・会長Ⅱ山口嘉彦氏（一九七九年商学部卒・六十三歳）

●OB市長・町長

▽静岡県森町長（二月四日告示・無投票）  
太田康雄氏（無所属②、一九八二年商学部卒・六十歳）

▽岡山県笠岡市長（四月十二日告示）

小林嘉文氏（無所属②、一九八三年商学部卒・五十九歳）

▽千葉県横芝光町長（三月十日告示・無投票）  
佐藤晴彦氏（無所属④、一九七九年商学部卒・六十三歳）

▽山形県川西町長（四月十四日告示・無投票）

原田俊二氏（無所属⑤、一九八〇年文学部卒・六十三歳）

▽長野県南木曾町長（四月十四日告示・無投票）  
向井裕明氏（無所属②、一九八四年文学部卒・六十歳）

▽東京都奥多摩町長（五月十七日投開票）  
師岡伸公氏（無所属①、一九七七年商学部卒・六十六歳）

## ●西調布合宿所

調布市・長野県木島平村からお米の支援を受け入れ

明治大学と相互友好協力協定を締結する調布市から、コロナ禍における学生支援活動の一環として、同市の姉妹都市である長野県木島平村で収穫されたお米の支援の申し入れがあり、六月十一日に西調布合宿所がこれを受け入れた。

合宿所に入居する学生が立ち会う中、訪れた調布市ならびに木島平村職員から木島平村のお米約百キが引き渡された。これに加えて、校友会東京都西部支部からミネラルウォーターが寄付された。

受け入れにあたり、体育会卓球部の学生から「新型コロナウイルスの影響で、思うように練習もできず寮にいることが多い。外食を控えているので、お米をいただけるとてもありがたい」と感謝の言葉が述べられた。

調布市では、体育会硬式庭球部が定期的に市民交流テニス教室を開催しているほか、同市を中心に本学を含む七校の大学が「調布市大学プラットフォーム」を形成し、各校の専門性を生かして市民に学びの機会を提供するなど、幅広い連携事業が行われている。

## ●就職キャリア支援センター

インターンシップアワードで優秀賞

五月十八日に「学生が選ぶインターンシップアワード二〇二〇」の結果が発表され、明治大学の取り組みが優秀賞を受賞したことがわかった。これは、学生の職業観涵養促進に効果的なインターンシッププログラムを周知し、学生と企業のより精度の高いマッチングを目指して毎年開催されているもので、第三回となる今回は三百六十一法人から四百八十二件の応募があった。

受賞した明治大学のプログラムは、二〇一九年九月に日本航空(株)との連携の下で実施された「インターンシップ&グローバルキャリアプログラム in ジャカルタ」。インドネシア大学の学生と協力してショッピングモールでの対面型マーケティングを行い、インドネシアで一番愛される航空会社になるための戦略を提案する産学連携型インターンシップ。緻密な事前学習と、現地での交流・調査を通じた単なる提案だけに留まらないプログラムが評価された。

受賞を受け就職キャリア支援センターは、「国際企業の魅力や競争力、やりがい現場で体験することにより、世界を視野に入れたビジネスキャリア観の醸成を目的として海外インターンシップを実施してきた。これからも学生の視野を拡げられるよう努めていきたい」とコメントを発表した。

## ●先端数理科学インスティテュート

文部科学省「共同利用・共同拠点」  
期末評価でSランク

このほど、明治大学先端数理科学インスティテュート(MIMS、所長 俣野博研究・知財戦略機構特任教授)の研究活動の一環として、文部科学省「共同利用・共同研究拠点」に認定されている「現象数理学研究拠点」が、二〇一四年度から二〇一九年度の六年間の認定期間中の研究活動に関わる文部科学省の期末評価を受審し、最高評価となるSランクの評価を得たことがわかった。

「共同利用・共同研究拠点」制度は、国公私立を問わず個々の大学の枠を越え、高いポテンシャルを有する研究設備拡充や、研究の場の提供を整備することを目的として二〇〇八年に創設されたもの。二〇二〇年時点で、理学・工学系、医学・生物学系、人文・社会学系を合わせて全国に一〇〇の拠点が設けられ、数理科学分野で拠点認定を受けているのは、MIMSを含めて全国で五拠点。

期末評価では、これまでのMIMSの活動について、「拠点としての活動が活発に行われており、関連コミュニティへの貢献も多大である」と判断されSランクの評価を受けた。さらに、新たに二〇二〇年度から二〇二五年度の六年間、共同利用・共同研究拠点としての認定が更新されることとなった。

評価を受けて、俣野所長は次の通りコメントを発表した。

\*

現象数理学研究拠点の認定更新を受けて

先端数理学インスティテュート

所長 俣野博

明治大学先端数理学インスティテュート (MIMS) が二〇一四年から進めてきた「現象数理学研究拠点」の事業が、文部科学省の共同利用・共同研究拠点として認定更新されることが決まり、先日、文部科学省から正式の通知をいただきました。これで二〇二〇年度以降も拠点事業が継続できることとなり、関係者一同ほっとしております。しかも、これまで六年間の活動に対する期末評価結果は最高ランクのS評価を頂戴しました。このような高い評価をいただいたことは、今後の事業展開の大きな励みになります。これまでMIMSの活動を支えてくださった多くの皆さまに、この場を借りて御礼申し上げます。

MIMSは、研究・知財戦略機構の付属研究機関として二〇〇七年に誕生し、社会とのかかわりを重視した数理学の発展・普及を目指しています。折り紙や数理錯覚学などのユニークな研究分野に加えて、数理人類学、生体構造の数理解析、人間や動物の社会行動の数理解析など、幅広いテーマを扱っています。

MIMSでは、拠点活動の一環として、共同研究や研究会の企画を毎年全国に募集し、採用された企画の開催に協力するとともに、計算機設備の全国共同利用サービスも行って、我が国における数理学分野の中核拠点のひとつとしての役割を果たしています。

また、二〇一六年に「Math Everywhere: 数理学する明治大学—モデリングによる現象の解明—」が文部科学省私立大学研究ブランディング事業に採択され、MIMSがその推進母体となつて、文理融合を趣旨とする複数のプロジェクトを走らせています。

昨今、学際的研究の重要性があちこちで叫ばれています。今後MIMSは、文系学部を含む学内の他部局や他大学と連携を強めながら、「文理融合研究」と「現象数理ライフサイエンス融合研究」の二つの方向に重点を置いて活動していきたいと考えております。多くの方々のご理解とご協力をいただければ幸いです。

### ◆ 駁台トピックス

#### ● ビジネス勉強会&グルメ会を開催

ビジネス勉強会とグルメ交流会をコラボして会員のさらなる交流を図ろうという「ビジネス勉強会&グルメ交流会」が二月五日午後六時から、日本で最初の経営者交流会（社交クラブ）である東京・銀座の交詢社中食堂で



開かれました。

今回の講師は日本最大で世界二位の規模を誇る製パン企業である山崎製パン(株)で三十八年間にわたり役員を務め、二〇一八年には最高顧問に就任、(株)不二家の立て直しにも大変な手腕を発揮され代表取締役会長を務めていらつしやるわが会の山田憲典副会長にお願いいたしました。いつもの例会とは違った貴重な機会ということもあり、七十人を超える方が参加しました。

山田副会長は、企業の中のIoT導入などの動きを実務や中国の現況などを例にしながらきわめて速く激しく展開する現状を解説、各方面から高い評価を得られる豊富な経営の経験談を、専門的な見地からはもちろんのこと、AKBなどの生みの親の作詞家・秋元博さんなどにも触れながら、三十分という限られた時間ではありましたが熱く語っていただきました。

「自分にも会社にも『喝』を入れながら、目標をもってみんなで引き締めあつていきたい」と、六十歳を過ぎてから十年ごとに目標を置いて青春しているというエネルギーを置いた生き方もお示しく下さり、「企業にとつてももちろん株主も大事だが、まずは従業員の成功だ」など、人との絆の大切さも説いていただく学ぶところも多いご高話に、うなずきながら熱心にメモをとる参加者も目立ちました。

講演後は、交詢社のフルコース料理に舌鼓を打ちながら、通常の例会とは違い、着席方式でゆつくり歓談できるということもあって、大いに盛り上がりました。

#### ●新入会員歓迎会で十七人が交歓

例会だけではなかなか交流の機会も限られてしまうので、過去二年間に入会された新入会員の方にお集まりいただいたの歓迎会が、二月十二日午後六時三十分から、十七人の新入会員の参加を得て東京・神田小川町の紫紺館で開かれました。

当山明彦専務理事が司会を務め、まず、田村駿会長が、「二〇二一年に創立一四〇周年を迎える明治大学ネットワーク構築のために、母校の将来を支援する経済人、法曹人、文化人が集う会の活動に尚一層のご理解を」と歓迎の挨拶を行います。そして、運営委員会を構成する総務事業鈴木隆志、組織・会員補強高澤徹、大学支援浅井宏、広報齋藤柳光、財務小山修の各委員長、そして矢嶋まゆ子事務局担当がそれぞれの現況などを報告して、活動への協力もお願いしました。

懇親会では名刺交換などで親しく交歓した後、十七人が自己紹介も兼ねて母校の思い出や仕事の話まで、それぞれ持ち味たっぷりのスピーチを披露してくださいました。

(16ページへ続く)





## 明治大学の将来を支援するOBの 経済人、法曹人、文化人が集う「連合駿台会」

「連合駿台会」は、経済、法曹、文化などの各界から集うOB組織です。

このたび「連合駿台会学術賞」に、浅井澄子政治経済学部教授、「連合駿台会学術奨励賞」に安部悦生経営学部教授、瀬戸義哉農学部専任講師が受賞され、1月22日に明治大学アカデミーコモンにおい

て、土屋学長、柳谷理事長のご臨席を賜り、授賞式ならびに駿台懇話会が行われました。

また、2月5日に山崎製パン(株)最高顧問・(株)不二家代表取締役会長で当会副会長であります山田憲典様を講師とした勉強会・グルメ会を、交詢社において開催いたしました。

「連合駿台会」は、次代をリードする会員が結集し、相互に補完し合いながら明治大学に貢献してまいります。

今後の  
スケジュール

- 3月 例会 講師：元・ミズノ代表取締役会長 水野正人氏
- 4月 連合駿台会ゴルフコンペ 場所：鷹之台カントリー倶楽部
- 5月 通常総会



勉強会・グルメ会 (2020年2月)

資料のご請求はこちらまで

連合駿台会事務局

TEL : 03-3296-4747 FAX : 03-3296-4748 ホームページ : <http://www.rengosundaikai.jp>  
Email : [rengosundaikai@silk.ocn.ne.jp](mailto:rengosundaikai@silk.ocn.ne.jp)



## 明治大学の将来を支援する経済、法曹、文化など 各界のOBが集う「連合駿台会」

### ■ 新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます

連合駿台会は、新入生の皆さまを心から歓迎いたします。

今、新型コロナウイルス感染拡大という大きな試練に直面しています。しかし、明けられない夜はありません。その日のためにも、我らが明治大学で夢と希望をもってし

っかり学び、そして生涯にわたる良き友を得て、社会に貢献できるような「個」を目指してチャレンジしてください。大いに期待しております。

「前へ！」新しい世界を切り拓いていくために共に歩みましょう。



連合駿台会 会長 田村 駿  
(明治大学評議員会議長)



資料のご請求はこちらまで

連合駿台会事務局

TEL : 03-3296-4747 FAX : 03-3296-4748 ホームページ : <http://www.rengosundaikai.jp>  
Email : [rengosundaikai@silk.ocn.ne.jp](mailto:rengosundaikai@silk.ocn.ne.jp)



## 明治大学の将来を支援する経済、法曹、文化など 各界のOBが集う「連合駿台会」

「連合駿台会」は、1953年に設立された「茗水クラブ」と、1964年に設立された「明友クラブ」が2004年に統合して設立された、経済人、法曹人、文化人が集うOB組織です。「連合駿台会」は、次代をリードする会員が結集

し、相互に補完し合いながら明治大学に貢献してまいります。

各界で活躍している、意欲ある明治大学校友の入会を私たちは歓迎いたします。



連合駿台会会長  
田村 駿  
(明治大学評議員会議長)



今後の例会では、講師として脚本家の池端俊策氏（昭和45年本学政治経済学部卒・NHK大河ドラマ「麒麟がくる」脚本ほか）、シンガーソングライターの玉城ちはる氏などを予定しております。

資料のご請求はこちらまで

連合駿台会事務局

TEL : 03-3296-4747 FAX : 03-3296-4748 HP : <http://www.rengosundaikai.jp>  
Email : [rengosundaikai@silk.ocn.ne.jp](mailto:rengosundaikai@silk.ocn.ne.jp)

★上段：明治大学広報3月1日号、中段：同5月1日号、下段：同6・7月合併号に掲載された大学への支援広告。今後も2カ月に1回掲載していく予定です。

(14ページより続く)

新入会員参加者は以下の方々です。

猪田忠、今村健、大澤道雄、大屋政則、北島力三郎、久保聡、黒田俊介、小井戸亮文、高見克司、寺本裕明、中澤良平、沼田裕紀、疋田邦雄、古本英樹、水谷浩、横山修三、渡部さとり (敬称略・五十音順)

◆退会会員

(平成三十一年四月～令和二年三月)

岡田茂、小野寺弘三、清末法弘、久保田裕一、河野典男(故人)、小塚一隆、小林一光、佐々木修二、椎名茂樹(故人)、志村康洋、瀬下和夫、宗邦雄、永瀬哲郎、名取輝能、野口昌宏(故人)、日高憲三、弘中徹、宮坂寿彦、村山芳史、森省三、山上雅隆

◆駿台懇話会出席者

○明治大学ご招待者

柳谷孝、土屋恵一郎、中村義幸、鈴木利大、大田原健司、荒川利治、林義勝、平井克彦、清水秀夫、浜本牧子、小西徳應、針谷敏夫、大倉学、鈴木賢志、荒川薫、堀内健、飯塚浩司、鈴木一弘、國原一雅、福岡英朗、小瀬川響子、市川園子、松尾智己、浅井澄子、阿部悦生、同ご友人、瀬戸義哉、小川知之、豊川浩一、武野純一 (敬称略)

○会員出席者

青木幹則、青柳勝栄、秋山隆敬、浅井宏、安達明正、阿部倫明、飯田和人、石川かおり、石橋良一、井上欽也、同ご友人、伊原敏雄、上西紘治、榎本知佐、大石哲也、大原幸男、大前実之、大村託現、大屋政則、奥村勝広、尾暮敏範、鬼塚和也、加賀美猛、狩野省市、栢森靖、苅部彰夫、久保聡、小島清治、五味道雄、小山修、根田哲雄、齋藤柳光、笹田学、佐藤和正、佐藤仁、佐野公哉、杉浦伸二、鈴木絃一、関孝夫、関根均、相臺志浩、高澤徹、

田代恭一(代理)、田中孝明、田村駿、辻井

知明、角田裕一、寺本裕明、当山明彦、徳丸平太郎、富水流孝二、中里猛志、中澤良平、長堀守弘、中村豊、二井康夫、西澤豊、萩原裕次、長谷川進一、畠中君代、羽生健一郎、林威樹、疋田邦雄、深代尚夫、同ご友人、福田和彦、古本英樹、眞壁八郎、榎野泰、同ご友人、松崎優子、向井眞一、向山勝、村岡健、森一朗、山上雅隆、山田晃久、山田朝彦、山田勝、渡部さとり

【編集後記】

ご無沙汰しております。コロナ禍の中、連合駿台会も再開することとなりました。そして、とても大変な世情の中、いかがお過ごしだったでしょうか。

ご健康はいかがでしたでしょうか。

季節はあつと夏に夏になろうとしていますが、学校も閉鎖となり、卒業式も入学式も中止に追い込まれ、昨年度の卒業生、今年度の新入学生には、なんとなく人生の区切り、節目があまりになり、悲しいことになってしまったなあ、と思います。

私の長男も今春、他大学に入りましたが、リモートの授業しかなく本当に大学に入ったのか否か? 大学生なのかなあ? 傍から見ると高校の延長のような感じがしてしまいます。大学の先生方は、コンテンツ作りなどの授業

の工夫でご苦労されているものと思います。仕事

事もそうですが、従来とは違ったやり方が必要となってきました。大変なこととは思いますが、どうぞよろしく願っています。

また、医療従事の方々には頭が上がりません。「ありがとうございます」以外の言葉が見つかりません。どうか、早くウィルスの正体突き止め、ワクチンを開発いただければと思います。

現在、お手元に明治大学からDMが届いたかと思えますが、「明治大学学生・教育活動緊急支援基金」のお願いが来ました。サポーター募金とは性格を異にするもので、私たち卒業生が今できる大学への支援なのかなあ、と感じます。

来年一四〇周年となり、今後とも我が明治大学が「強き光に輝けり」であり続けるには大事なことだと思います。どうかよろしく願っています。

(大石 哲也)